

中学校区の特徴

- ・様々な小学校から生徒が集まっている。
- ・全体的に落ち着いて学習に取り組む環境ができています。

目指す児童生徒像

- ・自分に自信をもち、心豊かでかしこく、21世紀をアクティブに生きる子

I 研究の概要

1 研究主題

「豊かな人間性と確かな学力を身に付け、自己実現を図ろうとする児童生徒の育成」
～練馬区型小中一貫教育研究を通して～

2 主題設定の理由

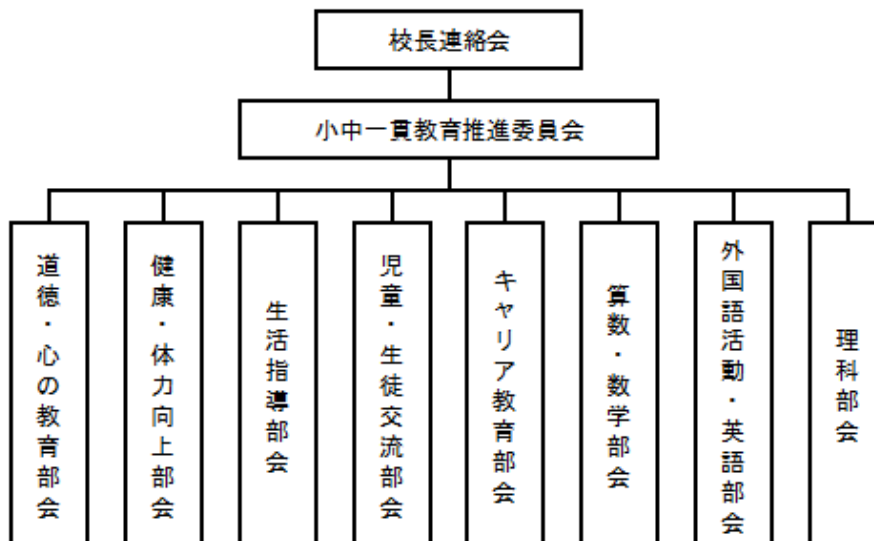
本校区の児童・生徒の実態から「人を思いやる心を育てたい」「挨拶がしっかりできる子供に育てたい」「子供の話す・聞く力を伸ばしたい」「子供の心ない言葉かけをなくしたい」そのような願いをもち、小中学校の教員が相互理解を深めながら共に実践的な研究を進めていくことで、主題に掲げた児童・生徒の育成に資すると考え、本主題を設定した。

3 グループにおける小中一貫教育推進上の課題

- ・小学校と中学校間の距離が離れている学校があるため、児童の中学校訪問、交流する時程の設定が難しい。
- ・中学校では学区外からの入学者も非常に多いことから、研究の成果を校区外からの入学者にどう還元していくか課題がある。
- ・中学校には特別支援学級がないため、小学校の特別支援学級の教員が研究や実践を共有しにくい。

II 研究を推進する上での工夫

1 連携を進めるための研究組織



2 年間研究計画 (全体および分科会も含める)

連携項目	実施日	主 な 内 容
全体会	6月24日(金)	第1回校区別協議会(授業参観・部会別分科会)
	9月14日(水)	一斉分科会
	11月17日(木)	第2回校区別協議会(授業参観・分科会:課題改善カリキュラムの検証)
推進委員会	5月23日(月)	今年度の研究の内容・進め方、部会開催日程の確認
	10月6日(木)	連絡・報告、今後の予定の確認等
道徳・心の教育	6月24日(金)	授業を通して、目指す子どもの姿について話し合い
	8月5日(金)	目指す子どもの姿と授業における配慮事項について、系統性の検討
	9月14日(金)	各校の年間指導計画の交流、整理 課題改善カリキュラムの作成
健康・体力	6月24日(金)	水泳出張授業の日程調整、投力を高める取り組みについての話し合い
	7月6日(水)	中学校教員による水泳出張授業(会場:関町小学校)
	8月4日(木)	水泳出張授業の振り返り、投力を高める取り組みについての中間報告
	10月26日(水)	投力を高める取り組みについての考察、報告書等についての確認
生活指導	6月24日(金)	各校で、昨年度作成した実践プランの実施・検証の確認
	9月14日(水)	
児童・生徒交流	6月24日(金)	児童生徒会サミットの内容確認、あいさつ運動の日程検討
	9月14日(水)	児童生徒会サミットの振り返り、あいさつ運動の日程決定
キャリア	6月24日(金)	これまでの研究の再確認、今年度の研究の進め方の提案
	7月27日(水)	各学年のキャリア発達課題及び記録表の様式検討
	9月14日(水)	引き継いでいく資料の検討、職員会議での提案の申し合わせ
算数・数学	6月2日(木)	授業実践に向けての話し合い
	9月14日(水)	授業実践・小中連携の取り組みの振り返り、まとめ
外国語・英語	7月25日(月)	課題改善カリキュラム作成について(課題の整理、作成についての確認等)
	8月29日(月)	課題改善カリキュラムの作成
理科	6月1日(水)	検証授業の検討、当日の役割分担、部会開催の日程調整
	8月1日(月)	課題改善カリキュラムの検討、分担
	8月29日(月)	課題改善カリキュラムの確認、成果と課題の確認
教員・児童交流	6月23日(木)	立野小5・6年生への中学教員出前授業
	5月26日(水)	運動会告知(児童会・報道委員)
	11月18日(金)	石神井西小5・6年生への中学教員出前授業
	2月24日(金)	関町小6年生への中学教員出前授業
児童・生徒の交流	7月9日(土)	児童生徒会サミット
	10月4日(火)~7日(金)	あいさつ運動

Ⅲ グループの特色ある取組

1 児童生徒の取組

「児童生徒会サミット」「あいさつ運動」を活動の軸として取り組んだ。



【 児童生徒会サミット 】

(1) 代表委員会と生徒会の交流

ア 児童生徒会サミット

今年度の児童生徒会サミットは、「SNS」をテーマに行った。SNSの利用に小中学校で大きな差があったので、テーマとしては難しかったが、それだけ利用に差があると分かったのも一つの成果と捉えられる。また、サミットの中で自由に意見を交換する時間を設けたところ、小学生は中学生に中学校生活についての質問を積極的にしていた。

このようなことが、中一ギャップの解消につながるのではないかと思う。また、昨年度6年生のときにこのサミットに参加して、入学してきた現中学1年生が生徒会に興味をもち、この秋生徒会役員になったことは、一つの成果と言える。

イ あいさつ運動

計4日間、小学生が中学校へ、中学生は小学校へ行き、校門に立って朝のあいさつ運動を行った。代表生徒だけではなく、在校生も互いに顔を合わせられるのは、いい刺激になった。特に、学校によって挨拶に差があったので、これからは4校で足並みをそろえて指導していくことを各校で提案していく。



【 あいさつ運動 】

生活の基本となる挨拶を、小学生のうちにしっかりと習慣化し、中学校へ入学しても継続して指導ができる体制の構築が大切であると感じた。

(2) 中学校の授業体験

中学校の教員が各小学校へ行って授業を行った。どの授業でも児童が活動する場面を取り入れて授業を行ったが、多くの児童が教員の指示をしっかりと聞き、児童が積極的に、かつスムーズに活動に取り組んでいた。この積極的な姿勢を中学校でも継続できるように、中学校教員も生徒が活発に活動できるよう授業を工夫していくことが必要であると感じた。

(3) 運動会運営補助

石神井西小学校の代表児童が中学校を訪れ、石神井西小学校の運動会の告知を昼の放送で行った。また、運動会当日、道具準備などの運営補助に入った生徒も児童に声をかけたり、手伝いを積極的に行ったりするなど、そこでも児童生徒の交流が図れた。

2 教職員の連携等の取組

(1) 小中合同研修会における共同研究

ア 出張授業

中1ギャップの解消や児童の学習意欲向上につなげるために、中学校教員が小学校に出張して授業を行った。教科は国語、社会、算数、理科、英語の5教科に絞り、主として6年生を対象に実施するが、小規模校では、5・6年生合同で授業を受けている。家族や兄弟から話しを聞いていて、授業前から親しみをもっている児童もいる。中学校の教員は、小学生にも分かりやすく楽しい授業になるよう試行錯誤しながら、学年所属教員全員で協力実施している。

イ 乗り入れ授業

中学校保健体育教員が小学校で6年生を対象に水泳の授業を実施する。中学校1年生は臨海学校があるため、水慣れや顔を水面から出した平泳ぎなど水泳指導のポイントを小学校、中学校の教員が共有する良い機会になった。他の2小学校では、授業をビデオに撮り自校に周知している。

IV 今年度の成果と課題および次年度の方策

1 成果

- ・研究授業を通して、9年間の学習内容の見直しが再確認することができた。見直しをもつことにより、授業内容をさらに精選し、より進展性のある授業が可能になることが確認できた。
- ・いじめ防止サミット、あいさつ運動、部活動見学など児童生徒の交流がより活発になり、子どもたちにとって貴重な時間になった。
- ・8つの分科会全てで、9年間を見据えた課題改善カリキュラムなどの作成することができた。

2 課題

- ・小中での生活時間の違い、小学校3校での時間の違いを調整しながら児童生徒の交流を図ること。
- ・作成したキャリアシートやワークシートの担任間や小中間での引き継ぎやどのように現場に浸透させていくか。
- ・課題改善カリキュラムを実践し、検証して意見交換を校種間で行う必要がある。

3 課題解決に向けての今後の方向性、取組の工夫、連携の在り方など

- ・継続できるものを精選していく。
- ・授業を公開し、小中学校で指導する事項を一貫していることを確認する。また、方法について定期的に振り返る時間や意見交換の場を設ける。
- ・連絡会などを年間行事予定に早めに組み込み、確保する。

V 課題改善カリキュラム

1 道徳・心の教育部会（道徳系統図 価値項目：自律・自由と責任 節度節制）

(1) 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

本中学校区の研究主題「豊かな人間性と確かな学力を身に付け、自己実現を図ろうとする児童生徒の育成」を受けて、道徳・心の教育部では「自律した子」を目指す子供像として設定し、授業実践を通して課題改善カリキュラム作成に取り組んだ。本年度は、発達段階ごとに「目指す子供の姿」及び「指導上の配慮点」を検討し、特に価値項目「自律・自由と責任」「節度節制」に絞り、各学校の年間指導計画を元に課題改善カリキュラムを作成した。



【授業のようす】

石神井西中学校区 「自律した子」にせまるための 道徳 課題改善カリキュラム			
	1 学期	2 学期	3 学期
低学年 「いけないこと」と「よいこと」が分かり、よいことを選ぶことができる。 ↓ よいことを選ぶのに、自分の生活の具体的な場面について考えさせることで、自分に身近なこととしてとらえられるように配慮する。	小1 らいおんのがっこう (日標) あつ、あふない (東書) ハムのおかたづけ (ぶんけい) がんばれ ホイ (ぶんけい) かぼちゃのつる (ぶんけい)	ランドセルは12さい (ぶんけい) よりみち (ぶんけい) ひつじかいのいたずら (ぶんけい) みみずくとおつきさま (ぶんけい) こぐまのらっぱ (東書)	おつきさまとコロ (文科) きんいろのクレヨン (ぶんけい) がんばれ ポポ (ぶんけい)
中学年 「悪いことを考えている自分」にも気付かせた上で、「よいこと」を自信をもって選ぶことができる。 ↓ 悪い面をもっている自分に気付かせるために、わざと教師側でゆさぶる発問をすることで、悪癖状態を作ることができるよう配慮する。	小2 じぶんでオッケー (東書) きんのおの (東書) わずれられないえがお (東書) りすのちよろた (ぶんけい) わらったねこ (ぶんけい) さいごになっちゃった (ぶんけい) 絵本のひとりごと (教出) あとすこし (教出) るっべ、どうしたの (文科)	えんぴつはんさい (ぶんけい) びよんたくんのゴール (ぶんけい) ぼく、よびにいってくる (ぶんけい) かけ算けんてい (ぶんけい) きつとだじょうぶだよ (学園) さるへいと立てふだ (東書) おれたものさし (東書) ぼくは「のび太」でした (東書)	ピンク色の花 (ぶんけい) みんなって何人 (東書)
高学年 「よいこと」と「悪いこと」の二面では割り切れないグレーゾーンについて、どのように判断するかを自分を比較しながら考え、TPOなどをふまえながら、よりよい方を選ぶことができる。 ↓ これまでの価値観で割り切れない問題にふれさせ、多様な価値観があることに気付かせるようにする。	小3 まどガラスと魚 (ぶんけい) 一重とびちゃんピオン (ぶんけい) ロバを売りに行く親子 (ぶんけい) 二つの声 (東書) ガラスの心 (学研)	キウイフルーツのたなの下で (ぶんけい) リフティング百回 (ぶんけい) 金色の魚 (ぶんけい) きつとできる (ぶんけい) よわむし太郎 (学園) 俊輔に学ぼう (学園)	色紙かして (ぶんけい) 医学の進に進みたい～野口英世～ (ぶんけい) バドミントンクラブ (ぶんけい) 6セント半のおつり (都 移行)
中学校 「自分が目指したい姿」を見出し、今の姿を自省し、ギャップをうめるために何が出来るかを自発的に考えることができる。 ↓ 多様な価値観があることが当たり前であることが前提で、話し合いができるようにする。	小4 エジソンとえいじ (ぶんけい) ぼくの部屋 (ぶんけい) あこがれのアナウンサー (ぶんけい) 金色の魚 (教出) いつかにじをかける (東書)	イモリが元氣だと雨がふる (ぶんけい) 「正直」五十円分 (ぶんけい) よわむし太郎 (ぶんけい) 心にひびく金の音 (学研) ぼくのはん画 (教出)	新次のしょうぎ (ぶんけい) 運動オンチのオリンピック (ぶんけい) シュートボール (ぶんけい) お魚大好き、さかなクン (ぶんけい)
	小5 いつも全力で (東書) 遠足の子どもたち (東書) 顔が表現するもの (日標) キャプテン (ぶんけい)	ベートーヴェン (東書) 手品師 (ぶんけい) うぼわれた自由 (文科) ヘレンとともに アニーサリバン (文科)	
	小6 キャプテン (ぶんけい) 見送られた二十球 松井秀喜 (ぶんけい) 伊能忠敬 (ぶんけい) 頂上はずぐそばに (ぶんけい) 心のししゅう (ぶんけい) 修学旅行の夜 (東書)	ロジエル (都 移行) 神父さまはマスクマン (東書) 心に訴える音楽を目指して (ぶんけい) 手品師 (ぶんけい) だれもしらないニュース (ぶんけい)	また勝てばいい 羽生善治 (ぶんけい) 新しい道を選ぶ 大村智博士 (開発)
	中1 加害者の悩み (教出) 弁当とハンバーグ (教出)	嘘と誠実 (教出) 原田泰治の世界 (教出)	
	中2 哲学のライオン (教出) 織座カレンダー (教出)	かけ (教出) 赤水園 (教出)	
	中3 死んだつもりで生きている (教出) 父のひと言 (教出)	最後の弁論大会 (教出)	

2 健康・体力向上部会

(1) 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

「平成26・27年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果およびその他の児童・生徒の実態から各小学校と中学校の共通した課題を検討した。調査の結果からは、「握力」と「投力」が課題として挙げられた。そこでこの2年間は、特に「投力」に焦点を当てて改善に取り組むこととした。また、その他の実態として、中学校から「泳力(特に平泳ぎ)」の低さが指摘された。そのため、「平泳ぎの泳力」の改善にも取り組むこととした。

(2) カリキュラム改善の視点

ア 「投力」の向上

小学校3校および中学校それぞれで方策を検討し、全学年で取り組むようにした。その有用性を確認するため、春の体力調査の結果と取り組み後のデータを比較、検討した。

石神井西小学校

サーキットトレーニングを取り入れ、そこに校舎と地上の間に斜めに張ったロープに通したバトンを投げた。紙鉄砲遊びなどを普段の遊びの中に取り入れた。ボール投げ運動の単元で正しい投げ方の指導を行った。

関町小学校

授業中5分程度、ロケットタイプの教具を用いて、投げ合う活動を組み入れたり、紙鉄砲などの紙を使った工作を利用したりした。

立野小学校

毎週金曜日の中休みに、運動遊びの一環として「ボール投げ」遊びを指導した。

石神井西中学校

各単元の準備運動として、5～10分程度の「投力を高める」取り組みを行う。

(例) 肩のストレッチング、ソフトボール地面たたきつけ、バドミントンラケット振り、新聞やり投げ、

タオル投げなどロケットタイプの教具を用いてアルティメット型のゲームを行った。

イ 「泳力」の向上

中学校教員による乗り入れ指導を小学校で行うことで、児童がより専門的な指導を受けられるようにした。時間的な都合により、今年度は代表校1校（関町小学校）で行い、残り2校は代表者が指導の様子をビデオで撮影し、自校で伝達講習を行った。



(3) 成果や課題など

ア 「投力」

(ア) 成果

(単位：m)

ソフトボール投げ		体力・運動能力調査6月						取り組みを行った結果10月						伸び					
学年		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
石神井西小	男子	7.4	11.6	14.5	16.1	20.3	24.1	8.6	13.5	15.2	17.4	20.5	25.4	+1.2	+1.9	+0.7	+1.3	+0.2	+1.3
	関町小	6.4	13.6	13.7	21.9	26.1	24.5	8.2	16.4	14.8	21.3	26.7	26.6	+1.8	+2.8	+1.1	<u>-0.6</u>	+0.6	+2.1
	立野小	7.2	11.7	17.0	20.7	21.5	28.2	8.5	11.9	17.9	22.1	23.6	26.4	+1.3	+0.2	+0.9	+1.4	+2.1	<u>-1.8</u>
石神井西小	女子	5.7	7.5	9.1	11.9	12.0	16.2	6.9	9.0	11.6	12.5	12.9	17.8	+1.2	+1.5	+2.5	+0.6	+0.9	+1.6
	関町小	6.5	7.1	9.0	13.1	14.4	14.3	7.8	8.0	10.4	13.3	15.6	16.0	+1.3	+0.9	+1.4	+0.2	+1.2	+1.7
	立野小	5.1	6.9	8.5	9.8	12.9	15.0	5.6	7.4	9.8	11.0	13.6	16.1	+0.5	+0.5	+2.5	+1.2	+0.7	+1.1
ハンドボール投げ		体力・運動能力調査6月			取り組みを行った結果10月			伸び											
学年		1	2	3	1	2	3	1	2	3									
石神井西中	男子	17.0	19.7	22.2	18.3	21.5	22.5	+1.3	+1.8	+0.3									
	女子	10.6	10.9	12.2	11.5	12.9	12.5	+0.9	+2.0	+0.3									

この結果から、何も取り組まない状態でも伸びる投力を、各学年の差と考え、その平均で求めると、1年間で小学校は約2.8m、中学校は約1.7m伸びている。6月から10月までの約1/3年間では小学校は約0.9m伸び、中学校は約0.6m伸びると考えることができる。

今回の取り組みによる伸びの平均は小学校と中学校も約1.1mであるため、その有効性が認められる。各校各学年の実態に応じて継続的に取り組むことで「投力」の向上につながると言える。

伸び	取り組みを行わない場合	取り組みを行った場合
小学校	約0.9m ⇨	約1.1m
中学校	約0.6m ⇨	約1.1m

(イ) 課題

- ボールなどの道具を用意しただけでは児童の取り組みは増えず、意図的に仕組まなければならない。
- 遊びの中で投げる機会が減っているため、「投げ方」を丁寧に教える必要がある。
- フォームはバレーボールやバドミントンでも活用できるため、さらなる取り組みが必要である。

イ 「泳力」

(イ) 成果

- ストリームラインが全ての泳ぎの基本になることを児童に改めて気付かせることができた。
- 中学校で遠泳に取り組むことを教員も知ることで、意識させながら指導できるようになった。
- 隣の児童と同じスピードで平泳ぎをすることは、遠泳を意識した大変面白い取り組みであった。

(イ) 課題

- 夏季水泳期間中に中学生による支援があると連携感が出る。→中学2年生なら検討できる。
- 事前の打ち合わせの時間が確保しづらい。

(ウ) 指導者より

- 6年生の授業において顔上げ平泳ぎを少しでも取り入れると、中学1年生の授業や臨海学校にスムーズに取り組むことができると感じた。
- 小学生がとても意欲的に取り組んでいた。中学生をリトルティーチャーとして数人派遣できればさらに児童・生徒間の交流にもなると思われる。

3 生活指導部

(1) 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

小学校から中学校へ進学する際に、引き起こされるとする中1ギャップは、両校の間にある生活・学習習慣の大きな違いが、児童生徒の戸惑いを生じさせている原因だと考えられる。

昨年度、生活指導部会では、9年間のカリキュラムを前期（小学1年生～4年生）・中期（5年生～中学1年生）・後期（中学2年生～3年生）の3段階に分け、それぞれの発達段階ごとの生活面・学習面の到達目標を設定した。目標の設定方法は、後期の到達目標を最終目標と考え、そこから各発達段階の目標をさかのぼって設定した。生活面で目標に設定した項目は、挨拶・思いやり・主体性の3つの観点とした。この3点は、中学校で特に問題点とされているものである。学習面では、挨拶・学習姿勢の2つの観点を挙げた。中学校に進学し、学習に取り組む姿の中で特に問題として取り上げられたものである。

今年度、作成したカリキュラムを基に各学校において実践し、検証を行った。中学校へつなげるという課題においての問題点は特になかった。今後、この基本の到達目標を各学校で共有していくことができるよう、各校のカリキュラムに導入し、各校の実態に合わせた内容の追加をしていくことが望ましいと考える。

(2) 系統図

発達段階に応じた系統

期	到達目標	前期	中期	後期
		小1～小4	小5～中1	中2～中3
生活面	挨拶 誰に対しても、挨拶ができる。	・自分からすすんで挨拶ができる。 ・相手を見て聞こえるように挨拶ができる。	・その場に合わせた挨拶ができる。 ・目上の人や他学年など相手に合わせた挨拶ができる。	・礼儀正しく、その場に合った気持ちのよい挨拶をすることができる。
	思いやり 他を思いやる心がもてる。	・優しい言葉遣いをする。 ・「ありがとう」「ごめんなさい」など相手に気持ちを伝えることができる。 ・相手のよい所を見つけることができる。	・困っている人がいたら声をかけて、助けてあげることができる。 ・先生に伝える、相談できるなど ・お互いに協力して行動することができる。	・相手の立場を尊重し、お互いに思いやりのある行動をすることができる。 ・お互いを認め合って、行動することができる。

	主体性	自分から考えて行動することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りのことができ、きまりを守って行動することができる。 友達の活動にも目を向けてよい所を見付けることができる。 自分の思いを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 善悪の区別をつけ、正しい行動をとることができる。 児童会活動などで自分の役割を理解し、何をすればよいのかを考え、最後までやりとげることができる。 自分の考え出し、話し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> すすんでできることを考え、自分の役割に責任をもち、最後までやり遂げることができる。 周りの環境をより良くするための改善策を考え、周囲に働きかけていくことができる。 相手の意見を受け止めながら、自分の考えを発信することができる。
学習面	挨拶	授業の開始と終了の挨拶ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりと終わりの挨拶を、「お願いします。」「ありがとうございました。」など、声に出して、きちんとした姿勢ですることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 「起立」「礼」の号令に合わせて、「お願いします。」「ありがとうございました。」などの挨拶を、声に出して、きちんとした姿勢ですることができる。
	学習姿勢	よい姿勢で学習に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 立ち姿勢と座り姿勢のよい姿勢を理解し、意識して取り組むことができる。 相手の顔をまっすぐ見て、正しい姿勢で話を聞いたり、学習に取り組んだりすることができる。 		

4 キャリア教育部会

(1) 研究を進める上での基本的な考え方

小中の9年間を一貫したキャリア教育について研究を行っていくに当たり、本部会ではまず、キャリア教育の理念と、小中を一貫したキャリア教育を行う意義について、下のように共通理解を図った。

ア キャリア教育とは児童生徒の将来の社会的、職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育てる教育である。

イ 人が社会と関わる中で自分らしい生き方を実現していく過程にはいくつかの段階がある。

ウ その各段階においてそれぞれ相応しい課題を設定し、自ら克服していくことを適切に支援する必要がある。

エ 「キャリア」とは、そのような課題を克服していくその連なりや積み重ねである。小中それぞれの取り組みについて知り、「連なりや積み重ね」が、系統的、継続的なものとなるようにしていくことが、児童・生徒の社会的・職業的自立のために、ひいては「生きる力」を育むために重要である。



消防署で2日間の職場体験（中学校2年生9月）

(2) 研究の実際（※1～4資料は、校務全体共有、学校共有、石神井西中学校、キャリア教育部会を参照）

ア 平成27年度

キャリア教育は様々な教育活動を通じて行うものであり、各校がそれぞれ様々な取り組みの中で行っている。そのため学校間で、お互いにどのような取り組みの中でキャリア教育を行っているのかをまず明確にする必要があると考え、小中9年間横並びの一覧表を作成することにした。作成にあたっては、育成すべき4つの能力についても共通理解を図り、それぞれの取り組みで育てている能力が、何と一致するかについても考えた。また、小中がお互いにそれぞれの取り組みについて理解しやすいように、単元名・ねらい・活動内容をできるだけ分かりやすく明記した。小学校は、全小学校で実施している取り組みと、各校独自に行っているものを区別できるようにした。（※1資料：「生活科、総合的な学習の時間

におけるキャリア教育一覧表)」

作成した一覧表を基に、小学校間や小中学校間で質疑応答を行い、それぞれの取り組みやその意義について理解を深めた。その結果、9つの学年全てにおいて、何らかの職業についての学習があること、小学校の取り組みの中には自分の成長を振り返ることをねらいとした取り組みがいくつか見られ、中学校では明確なねらいをもっては行われていないことが分かった。また、中学校においては、第2学年で行う2日間の職場体験が、事前と事後指導を含めると、総合的な学習の全時数の中で半分以上を占めるたいへん大きな行事であり、それが将来を見通した3学年時の進路選択へとつながっていくことを共通理解することができた。

イ 平成28年度

(ア) 9年間の記録表「〇年生の私」(仮称)

前年度に作成したキャリア教育活動一覧表を再確認しながら、9年間を通した、系統的、継続的なキャリア教育を行うためには、どのような連携が必要であり、また可能であるのかを検討した。まず文部科学省や都教委などの資料を参考にしながら、次のことを再度共通理解した。

- ① 人間の成長・発達の過程には、節目となる発達の段階があり、それぞれの発達の段階において克服あるいは達成すべき課題があること。
- ② 同時に、児童、生徒が社会的自立を目指してその時々の中で自分らしい生き方を実現していく過程にもいくつかの段階があり、各段階で取り組まなければならない課題があること。そして、文部科学省の複数の資料を参考にして、それらの課題を下のように一覧表にした。

9年間のキャリア発達課題の進展	小学校	低学年	→	中学年	→	高学年
	自己理解と他者理解	自分の好きなこと、得意なことを増やす		友達のよさを認め、集団内で自分の役割が自覚できる		集団内での役割を果たすことで自分への自信をもつ
	社会人としての自覚	集団の中での活動に興味や意欲をもつ		友達と協力して活動する中で周りとの関わりを深める		集団の中での役立つ喜びを体得する
	将来への展望			自分の成長に気付き、将来へ目を向ける		漠然としたものでもよいので夢や希望を模索する
	→ 中学校	1学年	→	2学年	→	3学年
	自己理解と他者理解	自分の長所を把握し、他者との違いに気付く		自分の言動の他者への影響について理解する		自他を尊重し人間関係を円滑に進められる
	社会人としての自覚	集団の一員として責任をもって役割を果たす		社会を客観的にとらえ、その一員としての自覚をもつ		社会の一員としての義務と責任を理解する
	将来への展望	将来へ向けての何らかの夢や見通しをもつ		夢や希望を実現するための現実に直面していく		将来設計を達成するための困難を克服しようとする

表を基に、どの学年のキャリア教育を行うに当たっても、表のような9年間の成長の流れの中に現在の指導がある、という意識をもつことが必要であることを確認した。

さらに、それぞれの児童生徒の発達にはばらつきがあって、その時々での発達課題は千差万別であり、前述の一覧表にある教育活動を行うにあたっては、個々の児童、生徒がそれまでどのように自分を見つめ、自ら課題を課し、それをどの程度解決し成長してきたかを知っておくことが大切なのではないかと考えた。

そこで、児童、生徒の成長してきた軌跡が分かるような記録を毎年とっておき、9年間引き継いでいく取り組みを考案した。記録表の様式を検討するにあたっては、次のことに留意した。

- ① 全校で様式や項目を統一し、クラス替えや進学をしても記録、保管、閲覧をやすくする。
- ② 教員構成が変遷していても毎年引き継いでいけ、9年間継続できる量にすること。
- ③ 次年度の担任が年度当初に全て目を通して、児童生徒の指導の参考にしやすいものとする。

- ④ 紛失、散逸せず9年間保管できるよう、ファイルや引継方法と担当者を全校共通で決めておくこと。

これらのことを考慮し、他県の取り組みなども参考にしながら検討を行って、担任が年度当初に児童、生徒理解を深めたり、教員が児童生徒の実態に応じた教育活動をしたり、児童・生徒が自分の成長に気付いたりすることができるように、小中の4校が共通項目を、以下の4項目に絞った。

- ① 好きなもの、得意なこと、自分のよいところ（現在の自分の肯定的理解）
- ② 将来の夢 なりたい自分（将来の自分に目を向ける）
- ③ 一番楽しかったこと、頑張ったこと、思い出（過去の自分を省みる）
- ④ これから頑張りたいこと（将来と現在を結び付け、課題を解決しようとする）

文言や質問形式はそれぞれの学年の発達課題や発達段階に応じて変更する。

(※2資料：「〇年生の私」)

(イ) 中学校における自分の成長を振り返る取り組み

昨年度の研究の中で、「中学校における自分の成長を振り返ることをねらいとした取り組み」が課題として出されたことから、イの(ア)の記録表を見ながら小学校の教員へ近況報告を送ることを提案した。自らの過去を振り返って、回りへの感謝の気持ちをもったり、自己肯定感を培ったりすることを目的とし、中学校1学年修了時と3学年の卒業時の直前に書く。

(※3資料：「1年間の中学校生活、9年間の学校生活」)

(ウ) 「働くこと」についての学習

同じく昨年度の研究で出された全校全学年で行われている「働くこと」についての学習について、記録表を引き継いでいき、どの学年でどのような学習を行ったか、どこを訪問したか、何を体験したかなどを明確にすることで、教員が児童、生徒の実態に応じた教育活動を行いやすくする。さらに中学校においては、1年時の調べ学習テーマや2年時の職場体験訪問先など、個人の記録も引き継げるようにしていくことを提案した。

(※4資料：「働くことについての学習の記録」)

5 算数・数学部会

(1) 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

小学校・中学校がそれぞれ互いの授業を見合うと、様々な違いが見えてくる。例えば、小学校の授業では、立式や計算ができるだけでなく、立式の根拠や計算の仕方を発表したり、友達の考え方を聞いたりする言語活動に重点を置いている。一方、中学校では、学習内容が多いこともあり、小学校に比べると言語活動は少ない。また、小学校の算数は、少人数による習熟度別指導による授業を行っているが、中学校はクラスごとの一斉授業である。このような違いは、小学校から中学校に進学する児童にとって、戸惑いにもなり、特に算数を苦手とする児童にとっては、学習の大きな壁になっていることも考えられる。そこで、本分科会では、テーマを「小学校から中学校へ、スムーズに接続するための指導の工夫」とし、小学校・中学校それぞれがお互いを意識し、スムーズな接続ができるよう研究を行っていくこととした。



【授業のようす】

小学校・中学校それぞれがお互いを意識し、スムーズな接続ができるよう研究を行っていくこととした。

(2) カリキュラム改善の視点

小学校4・5・6年、中学校1年を小学校から中学校のスムーズな接続の重点学年と捉えた。中学校1年生でのつまずきの多い単元として「文字の式」や「方程式」が挙げられたことから、授業において小学校から中学校へスムーズな連携を図るため、主に「数量関係」の領域において研究を行う。

○小学校・・・中学校の数学を意識し、算数で学んでいる数の世界がこれからもっと広がっていくことへの期待をもたせられる授業づくり

○中学校・・・小学校が積み重ねている言語活動を活用した授業づくりをカリキュラム改善の視点とし、授業実践による研究を行った。

(3) 授業実践

石神井西中学校	中学校1年	基本の作図（応用問題）
関町小学校	小学校6年	速さの表し方を考えよう
石神井西小学校	小学校6年 小学校4年	比例をくわしく調べよう ちがいに目をつけて～図を使って考える～
立野小学校	小学校3年 小学校5年	大きい数の計算を考えよう 比べ方を考えよう 平均 単位量あたりの大きさ

小学校での学習内容が、中学校に上がるとどのように発展していくのか、中学校側から考えると中学校の生徒が小学校でどのような授業をどのような授業展開で学んでいるのかを知るよい機会となった。算数・数学の学習は系統性をもち、段階を追ってつながっている。教師がこのことをしっかり理解し、見通しをもった指導を行っていく必要がある。

課題改善カリキュラム

	小学校	中学校
単元名	4年 「ちがいに目をむけて」	1年「文字を使った式」 2年「文字式の利用」 3年「式と計算の利用」
目標	図を用いることよさに気付き、問題を解決することができる	文字を使用して、数量関係を立式することができる。
学習内容	60枚の色紙を2人で分けます。Aさんの枚数が12枚多くなるようにすると、それぞれの枚数は何枚になりますか。	5000円を出して、一個x円のケーキを6個買ったときのおつりを式で表す。
指導の工夫	具体物を使って視覚的にも捉えられるようにする。等式について丁寧に扱い、立式ができるようにする。分からない数を□と置いて立式する。	線分図を利用し、視覚的にも捉えられるようにする。文字式の表し方に従って、立式ができるようにする。文字単位を含んだ式を答えとする。

	小学校	中学校									
単元名	小学校5年 「比べ方を考えよう」	1年 「変化と対応」比例									
目標	単位量あたりの大きさを用いて、問題を解決することができる。	比例の関係を表、式、グラフで捉える。									
学習内容	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>面積 (a)</th> <th>とれた重さkg</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>11</td> <td>570</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>14</td> <td>680</td> </tr> </tbody> </table> 米がよく取れたといえるのはA,Bのどちらの田んぼですか。		面積 (a)	とれた重さkg	A	11	570	B	14	680	お菓子を置くと、重さだけでなく値段も表示される。どんな仕組で値段を表示しているでしょうか。
	面積 (a)	とれた重さkg									
A	11	570									
B	14	680									
指導の工夫	数直線に表す（2つの量）から、式につなげる力が付くように指導する。比例の考え方を生かして、式が立てられるようにする。	表にして比例の関係をつかませる。式にすることで、（一般化）数の関係性が捉えられるようになる。									

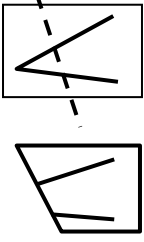
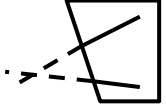
	小学校	中学校																												
単元名	小学校6年 「比例をくわしく調べよう」	1年「比例」																												
目標	比例の関係をグラフに表して考察することができる。	x軸、y軸が負の数まである場合の比例の関係をグラフに表して考察することができる。																												
学習内容	底辺が4cmの平行四辺形の高さxcmと面積ycm ² <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>高さX</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>面積Y</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>20</td> <td>24</td> </tr> </table>	高さX	1	2	3	4	5	6	面積Y	4	8	12	16	20	24	水槽に毎分5Lの割合で水を入れるとき、ある時刻を基準として、x分後に水の量がyL増える。 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>高さX</td> <td>・・・-4</td> <td>-3</td> <td>-2</td> <td>-1</td> <td>0</td> <td>・・・</td> </tr> <tr> <td>面積Y</td> <td>・・・-20</td> <td>-15</td> <td>-10</td> <td>-5</td> <td>0</td> <td>・・・</td> </tr> </table>	高さX	・・・-4	-3	-2	-1	0	・・・	面積Y	・・・-20	-15	-10	-5	0	・・・
高さX	1	2	3	4	5	6																								
面積Y	4	8	12	16	20	24																								
高さX	・・・-4	-3	-2	-1	0	・・・																								
面積Y	・・・-20	-15	-10	-5	0	・・・																								
指導の工夫	グラフ上の点と点の集まりが直線になっていくことを意識させる。原点(0)から右上がりの直線になる。	水を入れ始めた時刻を基準とするのではなく、ある程度、水が入った状態の時刻を基準とする。そのことを押さえることで、負の数に数が広がることに気付かせる。																												

	小学校	中学校
単元名	小学校6年生 「速さの表し方を考えよう」	中学1年生 「関係を表す式」
目標	道のりを求める公式を理解し、それを適用して道のりを求めることができる。	2つの数量の関係を等式や不等式に表すことができる。
学習内容	時速70kmで飛ぶことができる。 ツバメが3時間で進むことができる道のりを求めましょう。	兄の身長a cmは、弟の身長b cmより4 cm高い。このとき、数量の関係を等式で表せ。
指導の工夫	数量の関係を図や表などに表して捉えさせ、□などの記号を用いた式に表す。	xやyなど文字を用いて表現し、立式するために、視覚的に理解させる。

中学校の授業実践

角の二等分線、垂線、垂直二等分線の作図を利用して問題を解決する。

基本の作図を組み合わせて問題解決に利用する過程で、グループでの話し合い・教え合い学習を取り入れた。

具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> 基本の作図方法の確認。 ワークシートを配布して各自で復習 (垂直二等分線、角の二等分線、垂線、平行線) 	<ul style="list-style-type: none"> コンパス、定規の使い方 定規～長さを計らない、直線を引くだけ コンパス～幅を変えてよいときと、いけないときの区別を付ける 平行線の作図の確認をしておく。
<ul style="list-style-type: none"> 新しいプリント(角の二等分線)を配布して、半分をちぎり取る。 ちぎり取った後に残ったプリントに角の二等分線を引く方法を考える。 班をつくり、班ごとに互いの考えを伝え合い、班として方法をまとめる。 班ごとに発表する。 解答例を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板にプリントを貼り、半分をちぎり取り基本の「角の二等分線」の作図だけではできないことを示す。 使用する道具は「コンパス」「定規」「三角定規2つ」として、定規で長さを測ることはしない。 別の紙を追加して、直線を延長してはいけない。 他の生徒の考え方を知れば、自分の思考力を深められることを実感させる。 他の生徒に自分の考えを伝えることで、自分の思考を整理できることを実感させる。 
<ul style="list-style-type: none"> 各自で感想を記入し、提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教え合う活動が、互いの力を伸ばすことになることを伝える。

6 外国語活動・英語部会

(1) 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

児童、生徒のアンケートでは、外国語・英語活動が「好き」と感じている児童は80%、生徒は76%という結果であった。この結果から、児童、生徒の7割以上が外国語活動・英語を好きであり、意欲的に取り組んでいる。しかし、学年が上がるにつれて、「嫌い」という回答が増えていることも分かった。嫌いな理由として、「内容が難しくて分からない」や「歌やチャンツ、友達との会話が恥ずかしい」、「話すことに自

信が無い」という回答が多かった。

そこで、「英語が分からない」という思いから活動に積極的になれない児童・生徒が、楽しいと感じる授業にするために、スモールステップで展開させる授業、活動に必然性をもたせた授業にすれば意欲的に取り組むことができるのではないかと考えた。そこで研究主題は「より積極的に自信をもってコミュニケーションを図る児童・生徒の育成」として研究を進めることにした。

(2) カリキュラム作成の視点

カリキュラム改善の視点として、以下の3点を考えた。

ア スモールステップで授業展開を組み立てたり、安心してコミュニケーションを図れるような環境づくりを行ったりすることで安心感をもたせる。

イ 単元の目標を明確にして活動の意図を児童、生徒に伝えることによって必然性をもたせる。

ウ 発達段階に応じた知的好奇心を満たすようなアクティビティーを選ぶ。

これらのことによって世界の言語や文化に興味をもち積極的にコミュニケーションを図る態度が養われるのではないかと仮説を立て、カリキュラム改善の視点とした。

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・アンケートの実施や各校の指導内容を共有することにより、児童・生徒の実態が把握でき、課題も明確になったことで指導方法を改善することができた。
- ・アクティビティーの種類を増やすばかりでなく、同じアクティビティーでも発達段階やねらいによってやり方を変えることで、十分活用できることが分かった。

イ 課題

- ・今後も小学校、中学校の連携を密にし、系統性のある指導、児童・生徒の活動を工夫していく必要がある。
- ・ALTとの円滑な連携の仕方を考えていく必要がある。



【授業のようす】



【授業のようす】

(4) 課題改善カリキュラム

	課題	手立て・具体例
低学年・中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティと知識がつながりにくい。 ・時間数が少なく積み重ねがなくなってしまう。 ・素地がない。 ・ゲームのルールが理解できない。 ・外国語活動が得意な児童と苦手と感じている児童の差が開いてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業の中での振り返りを大切に。 (ALTと発話してから退出する。授業のまとめのときに必ず振り返りをする。) ・教室掲示などで日常の中でも英語に触れられるようにする。(曜日 給食や掃除中に英語の曲を流す。) ・授業時数が多い学校は、授業時期を集中させ、重点的に指導する。授業時数が少ない学校は、児童の興味関心を継続させるために学期に一回など、分散して行う。 ・デモンストレーションを何度も見させて発話やゲームに慣れさせ安心感を与える。(ALTと教員 ALTと児童 児童と児童) ・児童に親しみのあるゲームを扱う。(ビンゴ フルーツバスケット 猛獣狩りに行く) ・ゲームのルールを少しずつ覚えていき、児童が飽きないような工夫をする。(キーボードゲーム、ミツシングゲーム) ・得意な児童にはデモンストレーション等でボランテイアとして活躍できる場をつくる。 ・グループ活動を必ず取り入れ、児童同士で教え合いができるようにすることで、苦手な児童が不安にならないようにする。 ・ゲームを活用し、繰り返し発話させることで、自信をもって言えるようにする。(サブゲーム) ・英語ルールの活用、ALTとの学習を通していつもと違う雰囲気をつくり、気持ちを高める。また間違えても温かく受け止められる学校の雰囲気づくりを行う。 ・発問を工夫し、考えさせるようにする。(授業始まりの挨拶では、決まった挨拶だけでなく、パリエーションを増やして発問するようにする。What day is it today?→What day is it tomorrow?)
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしさや自信のなさから、積極的に活動できない。 ・決められたことは言えるが、学習してきたことを生かして発話できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず、全員に発言させる。(「英語の挨拶」や「友達のことを知ろう」He/She likes~) ・スモールステップでスバイラルに学習させる。(「だれかどのスポーツを」 Does he/she?) ・動機付けを高め、ワークシートや評価シートの工夫(自己、他己)を行う。(「あなたはエスパー」What is this? 人気調査What~do you like~?)
中学校1年	<ul style="list-style-type: none"> ・発言する生徒が決まっている。 ・発言した内容がしっかりと定着していない。 ・他の生徒の発表に対する興味・関心が薄い。 	
中学校2年	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に英語を発話する場面が少なくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が発表できる環境を設定する。(「Ice breaker」Find someone who~?)
中学校3年	<ul style="list-style-type: none"> ・上位と下位の幅が広がっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎をベースにした活動を主に設定し、+αとして発展的な授業内容を毎時間準備する。(各分野において、基礎+αの教材を準備する)

7 理科部会

(1) 課題改善カリキュラム作成上の基本的な考え方

小学校の児童の実態として理科の実験・観察には興味を示し、楽しんで行うが、実験結果を予想したり、結果を考察したりすることには消極的である。また中学校の生徒の実態として知識・理解は十分達成できており、実験や観察は好んで行うが、結果を考察したり、レポートにまとめたりする学習を苦手とする生徒も少なくない。

そこで、実験や観察だけを楽しむのではなく目的意識をもって問題を解決し、自分の考えを表現できる児

童・生徒を育成するためには、小学校3年生から中学校3年生までの7年間の学習の流れを見据え、思考の流れを考慮したワークシートを工夫を施せば上記の課題に迫れるのではないかと考え、研究テーマを「思考力・表現力を高めるワークシートの工夫」とした。

(2) カリキュラム作成の視点

理科分科会での課題改善カリキュラム作成の視点として、観察、実験などの問題解決の活動を通して児童が既にもっている自然についての素朴な見方や考え方を、少しずつ科学的なものに変容させていく必要があると考えた。そのために、発達段階に応じて構造化されたワークシートを活用すれば、問題解決学習の流れを身に付け、自然の事物現象について実感を伴った理解を深め、思考力を高めることができるのではないかと仮説を基にしたワークシートを作成し、各校にて継続的に実践することにした。

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・小学校、中学校の互いの授業を見合ったり、アンケート調査を行ったりすることにより児童・生徒の実態が反映された課題改善カリキュラムを作成することができた。
- ・学習ワークシートの共通フォーマット化により児童生徒の発達段階に応じた学びを系統化することができた。

イ 課題

- ・2年間で行った検証授業は2回のみであり、さらに一つの領域に絞った系統的な検証授業を行う必要がある。
- ・小学校の理科授業の一層の充実を図るために中学校の理科教員の助言や支援を受けられる機会を設ける。
- ・小学校ではまだ実践されていない学年もあるため、ワークシートなどを小中連携の共通のフォルダーに入れ活用していく。
- ・各校において、今後も継続的に理科部員が主導して研究を進めていく必要がある。
- ・今後は課題改善カリキュラムを実施して、効果を見極める必要がある。テストや授業の様子などで問題解決学習の流れを身に付け、自然の事物現象について実感の伴った理解を深め、思考力を高めるように改善されたかどうかを検証する。



【実験のようす】



【実験のようす】

